

新年のご挨拶

支部長 野中和徳

新年 明けましておめでとうございます。

この一年を振り返ってみると、まずは、異常気象の話題が思い浮かんでしまいます。春には国内外での異常乾燥による大規模な山火事があり、そして真夏日の連続、さらに驚くほどの集中豪雨や突風被害など、今までの想定を超える災害がありました。

そんな中で、多くの課題を議論されながらも開催された大阪・関西万博は予想以上の評判で予定以上の入場者数を達成して、無事、終了しました。その上、今までの記録を上回る海外からの観光客が訪れ、観光地や飲食店など、インバウンド市場の拡大でおおいに活況を呈しました。

これらの出来事を通じて、気候変動、災害等に対し不安を感じるとともに、海外からの多くの観光客の活況と比較して、円安を背景に物価高騰が進む日本の経済力の低下も感じたりしてしまいます。そんな思いの中で、東京無線支部を通じての皆様との交流が私にとっては大きな心の支えになっていると思っております。

おかげさまで、昨年も初春の集い、総会とともに盛況のうちに開催させていただきましたし、各地区での懇談会も開催させていただきました。また、各種サークル活動もコロナ以前の水準となり、新たにカラオケサークルが発足するなど、さらなる活性化も図られております。私も総会等はもちろんですが、各地区的懇談会にも極力参加させていただき、サークル活動の仲間にも入れていただいております。これらの活動においては、コロナの影響もほとんど感じなくなり、リアルに皆さんとお会いし、話し合えることのありがたさを実感させていただいております。

さらに、令和7年は「昭和100年」の年であり、「電電公社民営化40周年」の年にもあたります。

皆さんご存知のようにNTTも社名を日本電信電話株式会社からNTT株式会社とし、ロゴも刷新しました。現在、東京無線支部会員の多くの方が、昭和で育ち、電電公社に就職され、東京無線通信部に係る組織で仕事をされてきたと思いますが、民営化によってそれまでの組織が大きく変わってから、すでに40年たったと思うと感慨深いものがあります。当然でありますが、民営化直後に入社された方も60歳前後ということで、支部の会員として仲間となっていたらける年代になっているのです。そのような流れの中で、東京無線支部は無線業務を共にした仲間という集まりであるということで、民営化による組織変更はありながら、無線中継業務、衛星通信業務、移動体通信業務、電波関連業務などの縦を通じて連携を保ってきたと思います。従って、当然ではありますが、最近、入会いただいた会員の方は、主に民営化後の会社、組織の中で、無線関連業務に携わってきた方々であるということになります。現在の東京無線支部の平均年齢を考えると、若い時代に電電公社マンとして活躍された方々を中心にサークル活動等のリーダシップをとっていただいているのが現状です。この活動を支えている方々も、この機会にぜひ、昭和100年、民営化40年という時代の変遷を振り返っていただくとともに、より若い世代の会員の獲得やサークル活動への参加勧奨などにもご協力をいただきたいと思います。

特に、近年に入会していただいた方々の多くは、60歳代の方や、まだまだ元気に仕事を続けられる方です。支部の活動を理解していただくには、これらの新たな会員層の方々に集まりやサークルに参加していただることが重要だと思います。そのためには、日程、時間等を工夫するなど、まずは参加しやすいような工夫が必要です。サークル幹事や支部役員の方々にはぜひ、ご配慮をいただけるよう、ご協力ををお願いしたいと思います。

最後になりますが、今年一年の会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

